

## ディスカバー<sup>むら</sup>農山漁村の宝有識者懇談会概要

1. 日 時：平成28年6月14日（火）15：00～15：30
2. 場 所：総理官邸4階大会議室
3. 出席者：菅官房長官、森山農林水産大臣、石破まち・ひと・しごと創生担当大臣、  
萩生田官房副長官、世耕官房副長官、杉田官房副長官  
藤井内閣審議官、末松農村振興局長  
林座長、今村委員、田中委員、向笠委員、横石委員  
（欠席：あん・まくどなると委員、織作委員、東谷委員、永島委員、  
三國委員）
4. 概 要：
  - 林座長から開会挨拶
    - ・ この取組も3回目となった。昨年は、食育、観光、インバウンド、女性の活躍、農と福祉との連携など多様な地域活性化に資する事例をたくさん発掘することができた。
    - ・ 委員の有意義な提案やアドバイスにより、選定後のフォローについても大きな改善が図られており、今後の進め方などについて、活発に意見交換を行ってまいりたい。
  - 菅官房長官から挨拶
    - ・ 安倍政権において、農林水産業は、「成長戦略」と「地方創生」の重要な柱の一つと位置づけている。政府として、民間の方々の前向きな挑戦や創意工夫が一層引き出され、農林漁業者の所得向上につながるような意欲のある取組をしっかりと応援していきたい。
    - ・ この取組は、まさに地域の方々の創意工夫を選定することで、政府としても強力に応援していきたいとの思いから開始し、政権交代から3回目の取組である。
    - ・ 昨年は、特に600を超える応募があり、またグランプリを新たに設けたことで注目度が増し、第1回、第2回の選定50地区の状況をみても、選定を機に訪問客が大幅に増加したり、新商品の開発や新たな取引先の獲得により売上げが倍増したなど、成果が着実に現れている。
    - ・ 今年は第3回だが、全国の農山漁村の取組により、インバウンドや輸出の芽を拡大し、地方創生につなげていく、そんな魅力的な取組をしっかりと応援したい。
  - 森山農林水産大臣から挨拶
    - ・ 「ディスカバー<sup>むら</sup>農山漁村の宝」は、一昨年、官邸と農林水産省がタイアップした形でスタートした。第1回では23地区の優良事例、第2回ではグランプリ及び3つの特別賞を含む27地区の優良事例が選定された。

- ・ 今後は、選定地域の情報発信強化に努め、横展開を積極的に推進していくことが必要。更には、訪日外国人を我が国の「美しい農山漁村」に呼び込むことを視野に入れ、選定地域の魅力向上を促していくことも重要。
- ・ 今回は、第3回優良地区選定の進め方に加え、その情報発信や選定地区間のネットワーク化等についてもご提案させていただく。

○ 石破まち・ひと・しごと創生担当大臣から挨拶

- ・ 米が典型だが、作れば政府が買ってくれるとか、あるいは、作れば農協が売ってくれるといった時代ではないので、何をどういうふうにして売れば人が喜んでくれるのか、ということを徹底的に考えていくことが大事。
- ・ 全国の事例を見て、「どうせうちにはできない。」となると、横展開していかないわけで、どうすれば横展開ができるのかということも考えていかなければならない。

(末松農村振興局長から、資料に基づき、今後の進め方等について説明。その後、委員からいただいた主な御意見は以下のとおり。)

- ・ グランプリができて非常に良い傾向。次は、いかに賞の価値を上げていくかであり、賞のショーアップ化、例えば、グランプリを総理大臣が発表する等、ネームバリューを何倍にも上げることで、その地域に人が集まり、仕事も増える。そこからスターも出るし、大ブームも起き得る。
- ・ この賞の審査を通じて、日本のすばらしい資源とそれを支える人々の営みに気づかされる。この賞を基軸に、いろいろな展開を図っていく流れが正攻法であり王道だと思う。
- ・ 選定地区がさらにこれからどうしていくか、選定地区自身が考えられるようになっていくことが大事であり、サミットのような情報発信及び交流の場が作られると良いと思う。
- ・ 受賞地区は、現代日本を代表する優秀な方々が活動されており、国単位、県単位、地方の観光協会等でたくさんの受賞経験があるが、この賞の選定後の厚いフォローにより、手を携えて盛り上げていく姿勢が大事。
- ・ 今後のネットワーク化には、棚田、廃校、離島、福祉など活動の切り口で議論が進むと、厚みのある有意義なものとなるのではないかと。また、シンポジウムの開催は、木綿感覚、手作り感を織り込んだ催しとすれば、現代の日本を表現できるのではないかと。
- ・ これまで2回開催され、特に去年はすごく増えており、3度目の状況でこの受賞の価値が非常に変わってくる。審査側も一生懸命、情報発信していくが、現場の農政局の担当の方々のこまめな吸い上げが非常に重要。農水省から現場の方に声をかけて、できるだけ多く集められるよう、お願いしたい。
- ・ 受賞が終わった段階でも、大臣や審査委員が現場に行くことで、地域が盛り上がり、良い方向になっていくと思う。自分の地元でも、昔閣僚が来てくれたことをよく覚えているお年寄りがいて、いまだにその話を語ってくるなど、人

や地域に大きなインパクトを与えている。

(委員からの発言を受け、萩生田官房副長官から以下のとおり発言。)

○ 萩生田官房副長官

- ・ 昨年、初めて交流会に参加したが、大変良いことをやっていると思っている。
- ・ 官邸で表彰式をやること自体はそれで良いが、せっかく受賞者の皆さんがかなりの人数で官邸に来ていただいているので、入賞の副賞として、東京のどこか人が大勢集まるようなところで即売会的なことができるようになると、応援団も含め、盛り上がり情報発信になると思う。

5. 今後の予定等：

- ・ 事務局提案のとおり、第3回選定の実施方針について了解。
- ・ 本日（6月14日）以降、8月15日まで優良事例の公募を行う。
- ・ 有識者委員による審査を経て、10月頃に優良事例を選定し、11月頃に交流会を実施する予定。

(以 上)